

＜イースター礼拝＞ 復活節第1主日

4月12日 10:30~11:30

1 黙 禱

2 賛 美 21-325

3 聖 書 ヨハネによる福音書 20章 1~10節
(新 P209)

4 説教と祈り 「キリストの復活」 有馬尊義

5 賛 美 21-327

6 各々の祈り

7 主の祈り

(家庭礼拝の例です)

※讃美歌は著作権の関係で配信していません。

＜今週の聖句＞ ヨハネによる福音書 20章 8~9節

先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。

【次週(4月19日)の礼拝】

聖書：マタイによる福音書 17章 22~27節

説教：「神の子どもたち」 有馬尊義牧師

讃美歌：21-296、21-355

西荻教会ホームページ URL

<https://www.nishiogi-g-y.com/nc/>



皆さん、イースターおめでとうございます。今日は、主イエス・キリストが、十字架の死と苦しみから復活した記念の日です。

最初に、マグダラのマリアが墓に行ったことが記されています。「朝早く、まだ暗いうちに」と記しています。朝日が射す前の暗闇の中で、マグダラのマリアは「墓を塞いでいた石が取り除けられていることを見た」あと、すぐに弟子たちのもとへ走っていきました。彼女はイエス様の遺体が盗まれたと思ったのです。「どこに置かれているのか、」という言葉は、「どこに捨てられたのか」という意味です。

マリアから知らせを受けたペトロともう一人の弟子が走って墓へ行きました。ペトロが墓に入って、「亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じところに置いてなく、離れたところに丸めてあった」。ペトロが見たのは、盗掘とは違う、ということを示す亜麻布と丸められていた顔の覆いでした。日本風に言うときちんと畳んでおいてあったということです。イエス様は盗まれたのではないという証拠を見ました。

そして、もう一人の弟子は、「来て、見て、信じた」と記されています。彼は何を見たのでしょうか。間違いなくマグダラのマリアが見た取り除けられた石であり、ペトロが見た丸められた亜麻布です。目に見えるものを示せば、同じものです。しかし、それと共に彼が見たのは、墓の中にイエス様がない、ということを見たのです。マグダラのマリアは弟子たちに「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません」と言いました。ペトロたちが走って墓に来たのは、「イエス様はどこに置かれたのか」を知るためです。そして死に中にいないことを見たのです。それを「信じた」のです。信仰が与えられたのです。ルカによる福音書の記す復活の記事では、「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」(24:5,6)と記しています。

ところが、すぐ後に「イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかった」ということが書かれています。どういうことでしょうか。信じたのに、理解していないということがあるのでしょうか。

ある牧師が、まだ牧師となる前に自分の弟に教会に来てほしいと願っていました。そして弟がついに礼拝に来てくれた時、この先生は「しまった」と思ったそうです。弟が来た礼拝がイースター礼拝だったからです。イエス様の復活が語られます。弟は共産主義にのめり込んでいました。共産主義では教会は厳しく非難されます。イエス様の立派なお働きや深い教えなら聞く気にもなるかもしれないが、「復活」を弟は聞く気になれないだろう。「復活」というくだらないことを人々に信じさせるのか、と喧嘩でもはじめないかとびくびくしたのです。ところが弟の方は「復活」を聞いた瞬間に、「これだ!」と思ったそうです。これがキリスト教だ、と思ったのだそうです。そして、その日から教会に通い続けて、聖書を学び、ついに弟も牧師となったそうです。そこに理解の積み重ねはありません。「これだ!」と示された神様のお働きがあります。

信仰は、理解の延長線上に到達するものではありません。信仰は神さまが与えてくださるものです。「もう一人の弟子」と言われた弟子にとって、この時がそうでした。マグダラのマリアにとっては、この後に復活されたイエス様に声をかけられた時でした。ペトロにはさらに別の時があります。

昨年まで、この季節にはイースターのイベントやイースターにちなんだお菓子がたくさん用意されていました。子どもたちが卵探しをして、私たちは一緒に食事をしてイースターを祝いました。今日のような、誰もいない礼拝堂で説教を語るとは想像もできませんでした。今、わたしが見るのは、いないという事実を見ています。しかし同時に、復活されたイエス様は生きておられ、皆さんと共におられることを信じています。この世界の只中で、人と人のかかわりの中で、そして私自身の中で、イエス様は共に生きて働いておられます。